学校関係者評価委員会による評価及びご意見

1. 令和4年度自己点検自己評価（令和4年4月1日～令和5年3月31日）による学校関係者評価

（点数の基準について）
4. 適切に対応してる。課題の発見に積極的で今後さらに向上させるための意欲がある。
3. ほぼ適切に対応しているが課題があり、改善方策への一層の取り組みが期待される。
2. 対応が十分でなく、やや不適切課題が多い。課題の抽出と改善方策へ取り組む必要がある。
1. 全く対応をしておいらず不適切。学校の方針から見直す必要がある。

令和5年6月30日実施

大項目	点検・評価項目	点検表項目総括	特記事項 （特徴・特色・特殊な事情等）	自己評価	学校関係者評価委員会評価	学校関係者評価委員からのご意見
1 教育理念・目的・人材育成	1-1 理念・目的・育成人材像 1-1-1 理念・目的・育成人材像は、定められているか	教育理念や育成人材像は、学生便覧、学校ホームページ、学校案内等に明示されている。これらの理念等は学校説明会やオリエンテーション、保護者会等を通じて学生や学生保護者など関係者に周知されている。 社会の変化を速やかに教育に反映させるため、業界関係者等を構成員とする教育課程編成委員会を設置し、常に新しい情報を収集し教育カリキュラムや教育指導方法の改善を図っている。	本校は平成26年3月31日、文部科学省より9学科について「職業実践専門課程」の認定を受けた。 本学園は「職業人教育を通じて社会に貢献する」ことをミッションに、建学の理念を明確に、開校以来運営を行ってきた結果であり、本校の教育が社会的に評価されたことを示している。これにより各学科の教育運営の責任がより重要になったといえる。	4.0	4.0	理念・目的・育成人材像は定められていて多方面に明示されている。信頼できる。 理念、ビジョンが明確であり、時代のニーズに応じて対応されている。 職業実践専門課程の認定を受け入れたことについては、評価できることで教育離縁についても明記される。
	1-1 理念・目的・育成人材像 1-1-2 育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	職能団体等に協力をいただき、講義・実習等で業界関係者が直接指導・教授してもらえる環境を作り、業界の現状や求められる人材像を学生に伝えている。学外実習では業界の現場体験が可能である。	教育課程編成委員からの定期的な業界情報の収集と、職員の業界情報を統合して各学科の教育に反映させる準備を進める。グループ校と協同し課程ごとに実践的な内容の教材作成を進めている。	4.0	4.0	育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合している努力が窺える。 業界のニーズはAIや多様な働き方によって変化が速くなっているので、業界とのつながりを重視してほしい。 社会の変化に対する対応がタイムリーに行われている。 カリキュラムの変更などに伴う実技等についても適切に行われている。
	1-1 理念・目的・育成人材像 1-1-3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取組んでいるか	研究や海外研修などの特色ある教育活動により、卒業後の職業に直結した教育活動を行っている。	新たな付加価値教育を計画してく段階となっている。学科ごとの特色ある内容の教育を充実させていく。	4.0	4.0	理念等の達成に向け特色ある教育活動に取りに組んでいる。 知識・資格だけではなく、卒業してからそれぞれの業界で活躍できる人を育成できるかが課題だと思います。 多種多様な教育活動が取り組まれている。 特色のある教育活動をされている。
	1-1 理念・目的・育成人材像 1-1-4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか	中長期的な学校の将来構想は法人の5か年計画や事業計画に定めている。学内の会議や学園新聞やホームページでも告知している。	学校の将来構想については、具体的にわかりやすく学校関係者に周知できるよう努力を続ける。	4.0	4.0	社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いている学内の会議や学園新聞やホームページにも告知、安心です。 変化に対応した学科編成が行われている。 定期的な評価委員会により明示されている。
2 学校運営	2-2 運営方針 2-2-1 理念に沿った運営方針を定めているか	本校の運営方針は建学の理念を基に、教育理念や育成人材像をとともに策定されている。運営方針は毎年度作成される事業計画にも明示されているが、事業計画は、学校責任者を中心に教職員の代表が作成にあたっており、作成後は年度末の会議で翌年の事業計画について情報共有し、毎月の全体会議等で目標数字についても確認しPDCAサイクルを回している。	運営方針は年度計画として毎年度検討され適宜修正も行いまとめられている。運営方針が記載されている事業計画書の書式は法人内で統一されており、姉妹校間での比較検討や過去の取り組みと比較することが容易であるため、学校運営に都度反映を行っている。	4.0	4.0	理念に沿った迂遠衛方針はしっかりと定めている。 方針やビジョンが明確である。 理念に沿った教育をされている。
	2-3 事業計画 2-3-1 理念等を達成するための事業計画を定めているか	学校法人大阪滋慶学園では中期計画として5か年計画を策定しており、その計画に基づき事業計画を策定している。5か年計画、年度毎の事業計画ともに、学校教職員に対して会議等を通し都度共有を図っている。事業計画には年度目標（定量・定性目標）、予算、運営体制、職務分掌なども明記され、定期的に事業計画の進捗確認を行いながら、運営を行っている。	定期的な中長期計画の見直しも行われ、計画的に学科設立や新規分野への展開なども行われ、学校の発展に寄与している。事業計画では5か年分の学生数を予測し、収支予算の計画も作成されている。	3.0	3.5	理念等を達成するために事業計画は具体的にしっかりと定められている。 短期・長期計画、PDCAサイクルが機能している。 事業計画も示されていてわかりやすい。
	2-4 運営組織 2-4-1 設置法人は組織運営を適切に行っているか 2-4-2 学校運営のための組織を整備しているか	法人の理事会、評議員会は規程に則り適正な運営がなされている。学校内の組織として教務部と事務部があり、職務分掌を定め業務を行うとともに、会議等で情報を共有し、教職員全体のチームで学校運営を行っている。また、協同できるように、委員会組織を設立し主体的に提案できる人材育成を心掛けている。	学園全体として、FD,SD等の研修が経験年数やキャリアを加味して体系的に行われている。教員対象、事務職員対象、学科長対象、管理職層対象などの階層別研修や、教職員全体研修など目的に応じた種々の研修が実施され、各スタッフのスキルアップをおこなっている。	4.0	4.0	設置法人は組織運営を適切に行っている。学校運営のための組織は具体的に整備されている。 教員の専門性向上に向けて、時間・お金をかけることは今後必要となる。 講師への講習などスキルアップに努めている。
	2-5 人事・給与制度 2-5-1 人事・給与に関する制度を整備しているか	法人での就業規則が整備され、育児や介護などの休業に関する規定をはじめ、教職員を支援する枠組みがある。人事関係については法人本部が統括しているため、問題なく運営されており、人材募集についても法人のホームページを中心としてオープンな採用を行っている。	教職員の人事考課は法人全体で共通の内容となり、教職員各々が自己目標に対する自己評価を行い、それに基づき上長が面談を行い、人事考課を行っている。人事考課は、面談を通して年間の振り返りと成長の機会ともしている。就業規則については、毎年度見直しを行い共有部分に設置し閲覧可能にしている。	4.0	4.0	人事・給与に関する制度は諸事情に合わせて整備されている。 高い専門性、教員の学び続ける素養、アプローチを期待したい。適切と思われます。
	2-6 意思決定システム 2-6-1 意思決定システムを整備しているか	学校内の意思決定システムは整備されており、書類の流れや権限についても学内の会議や研修を通して教職員に周知されている。これらは会議規定等に定められ、年間の事業計画の中にも明示されている。	CybozuGaroonの導入など業務のデジタル化とオンライン化が進んでおり、意思決定したことが一部オンライン上でも共有できるようになり、速やかに情報共有ができるようになっている。	4.0	3.8	意思決定システムを整備している。 教職員の業務負担、連携、業務の効率化をさらに期待したい。 オンライン化も進められている。

大項目	点検・評価項目	点検表項目総括	特記事項 （特徴・特色・特殊な事情等）	自己評価	学校関係者評価委員会評価	学校関係者評価委員からのご意見
	2-7 情報システム 2-7-1 情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか	学生の入学前から卒業後までのデータは、学校の基幹システムによって管理されており、システムはセキュリティ面でも優れている。メンテナンスは提携している企業が一括管理しており、今後はデータの一元化が進み一層の効率化が図られる。	教職員は年度ごとにITリテラシーテストするとともに、定期的に個人情報に関する研修を受講し、個人情報取扱従事者資格の認定を受けており、情報管理に関して一定水準を維持している。	3.0	3.3	情報システムに取り組み、業務の効率化を図っている。 一元管理はずいぶん進んでいるように思える。使いこなしに励んでください。 個人情報保護サイバーセキュリティの向上にいっそうの努力が必要かと思います。 個人情報管理、システムトラブル対応に留意していただきたいです。 教職員の業務負担、連携、業務の効率化をさらに期待したい。 一定の水準を維持している。業務システムの導入でかなり省力化につながっていると思われる。情報の取り扱いについて注意いただきたい。
3 教育活動	3-8 目標の設定 3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか 3-8-2 学科毎の修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか	建学の理念である「実学教育」「人間教育」「国際教育」を基に、学校及び各学科で教育目標（3P・養成目的・ミッション等）を策定し明示している。また、各学年での知識・技術・資格等の取得レベルと修得プロセスと評価方法を明文化している。	資格に対して委員会組織を構成し、体制整備や情報交換を行ない目標設定及びその達成に向け対策を講じている。 プレカレッジ・プレスクールや高専連携授業等の学びながら入学するシステム構築を目指し、入学前教育についても積極的に実施している。	3.8	3.9	理念等に添った教育課程の編成方針：実施方針を定めている。学科毎の修業年限に応じた教育達成レベルを確かにしている。 医療従事者にふさわしい人格形成、障碍者に対する偏見を減らすような指導を希望します。学生に対して手厚い教育、指導がみられる。 目標設定、入学目教育にも力を入れている。
	3-9 教育方法・評価等 3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか 3-9-2 教育課程について、外部の意見を反映しているか 3-9-3 キャリア教育を実施しているか 3-9-4 授業評価を実施しているか	教育課程の編成においては、関係各局や関連法規、業界・教育課程編成委員・学校関係者の評価、年2回のカリキュラムアンケート、定期・不定期の学生面談、実習先や就職先・学会等の情報等、学校内外の様々な情報や評価をもとに時宜に応じて必要な編成・改善を行なうことができている。	カリキュラムアンケートや講師会議、学校関係者評価・教育課程編成委員は学校の取り組みとして、年間行事の一環として行われている。また、キャリアセンター職員を中心に、情報収集も兼ねた関連施設や企業の訪問も定期的に行われている。	3.6	3.8	教育目的：目標に沿った教育課程を編成している。教育課程について外部の意見を反映しているキャリア教育を実施している。授業評価の実施は不明。 学生が理解できる授業を望みます。 就職先の業界に関する法律などの教育はできているか？グローバル化社会で法律はどんどんかわっていっている。 学生の状況や時代の流れに応じた対応がなされている。 教育方法などアンケートもされていて評価されている。医療技術専門職連携教育は学生時代からチーム医療を学ぶことができ、すばらしい。
	3-10 成績評価・単位認定等 3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか 3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか	成績評価については学則に明記されており、学則も入学時に全員に配布されている。また、年度初めのオリエンテーション等で都度、説明が行われており、共有されている。	成績の判定や履修の認定については、必ず学校責任者同席のもと判定会議が開催され、客観的評価が行われている。 毎年度、大阪市中央公会堂にて在校生が研究発表する機会を設けており、学生の創作意欲や探求心の向上を支援している。	3.7	3.7	成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用している。作品及び技術等の発表における成果を把握している。 最終的な成績は保護者にも郵送されてくるが、テストの結果は本人しか知らなくて何教科再試になっているのかわからないのが困る。 AI論文等を使いすぎないよう厳しい指導を。学びや成果の可視化が今後求められる。発表や学内コンテストなど学びの成果を見える化してアプローチしていただきたい。 シラバスへの明示、学則に沿って評価されている。
	3-11 資格・免許取得の指導体制 3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか 3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか	資格試験受験対象の学生には、模擬試験にて定点観測し分析している。過去問題は学園内で運用しているJwebに登録されており、学生が自由に閲覧することが可能となっている。 グループの国家試験センター主催の研修も毎年度開催されており、研修で得た内容を活用し学生指導に当たっている。	学園オリジナルで開発されたJwebは、教員が資格取得を目標にする学生指導を行うためのツールにもなっており、自習課題などの作成も容易にできるツールであり、MicrosoftTeamsと併せて使用している。また、学園内で資格取得に関する情報や学習方法に関する情報を共有する機会も定期的に設けられている。	3.6	3.7	目標とする資格・免許は教育課程上で明確に位置付けている。資格・免許取得の指導体制はある。 合格できるまで帰れない等厳しくしてほしい。 学生が簡単・気軽にスマートフォンから情報を得たり、復習・勉強できるはいいことだと思います。免許取得・国家試験対策などをしっかりを行われいる。卒業後の教育にも期待したい。早くから資格試験対策や法人としての体制も整っている。 合格率アップのための教科
	3-12 教員・教員組織 3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか 3-12-2 教員の資質向上への取組みを行っているか 3-12-3 教員の組織体制を整備しているか	教員体制は学科ごとのコンプライアンスが徹底されている。また、学園内でFD研修も開催されており、教育技法を中心として知識と技能については、一定水準が保たれるような取り組みが行われている。 教育連携は学科ミーティング等で共有され、学生指導や資格指導等に成果を出せるよう運営されている。	学園内で行われているFD研修は全教職員を対象として、入職年ごとに必要スキルが設定され開催されている。 教職員の研究活動については、JESC(滋慶教育科学研究所)の支援もあり、年度毎に成果を共有する機会も学園内で設けられている。	3.7	3.7	資格・要件を備えた教員を確保している。教員の資質向上への取り組みを行っている。教員の組織体制を整備している。 教育の確保が重要ではないか。教員働き方改革に取り組み、少しでも離職者を減らすよう努力してください。適切に整備されている。
4 教育成果	4-13 就職率 4-13-1 就職率の向上が図られているか	就職実績のある事業所との良好な関係を維持しつつ、常に業界のマーケティング調査を行い、新規の就職先も同時進行で開拓する事が大切。業界と学生のマッチング率を上げていくことで今後も就職率向上はもちろん、業界との信頼関係を構築していく事が重要。	最終学年で指導を行うのではなく入学学年から学生のニーズならびに就職に対する考え方を整理できるように指導を行い、業界動向に合わせた就職先の提供を行う。また、世の中の必要性をキャッチし学科へフィードバックを行い、世の中のニーズ・企業のニーズに合った学生を育成しWinWinの関係性を維持する。	4.0	4.0	就職率の向上が図られている。学校側の多大なるご努力に敬服いたします。 特にロボット・AI系は企業規模や業界にとらわれず、広く就職先を探してほしい 専門学校としての就職率、専門就職率、離職率、これらのデータが重要となる。さらなる支援を期待したい。ほぼ100%と理想的である。
	4-14 資格・免許の取得率 4-14-1 資格・免許の取得率の向上が図られているか	年間を通してそれぞれの資格対策において、教職員はもとより、学生も個々の資格取得、全員合格に向けた努力や意欲が見られるが、理解度2極化の拡大傾向は続いている。初年次教育を含めた基礎分野の定着に時間を要している。国家試験合格や資格取得に関する目標を達成する工夫と併せて、卒業後の即戦力を目標にして、対策に更なる講師の意識向上とスキルアップも含めた対応を検討している。	学科や課程の違いによる学生の生活や学力に変化が著しく、授業以外にも放課後や土曜日・日曜日に補習や補講などの特別講義を実施するのと併せて、学年ごとの学力の到達状況や理解力を把握できるように、確認テストを定期的に実施している。また、学びながら入学するシステムも設定し、入学前からの計画的な指導を目標としている。	3.3	3.4	資格・免許の取得率の向上はいろいろと工夫されて実施されて図られている。学生・保護者の方々は大変喜ばれていることと思います。 国試合格率は専門学校にとっても生命線であると思う。合格率向上を期待する。 国家試験への対応、現役合格できなかったものに対する継続した支援も期待したい。 学科によって100%に届いていない。合格率アップ 近年、臨床工学技士の国家試験は易しくなっているようなのですが、合格率100%になれないことは問題と思われます。
	4-15 卒業生の社会的評価 4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているか	定期的な就業状況調査に加え、求人票入手時や学外実習先依頼時、訪問時やアンケートを通して、卒業生の在職状況、役職など就業状態の把握に努めている。また、同窓会活動を通して学校イベントや卒後勉強会に卒業生を招きヒアリングも行っている。 卒業した学科の教員を中心に、入職1年後の離職状況と3年後の離職調査は毎年度実施されている。	新型コロナウィルス感染症の感染拡大の影響があり、遠隔で同窓会を開催し、参加者からも好評であったため、今後も同窓会や卒後教育の実施手法として継続する。就業先や関係団体で高い評価を受け、組織の役職や役割を担っている卒業生も多くなっているため、卒業生には業界特別授業や講師、学校イベント（広報、就職）への協力など様々な形で学校運営に関わっていただいており、多数の卒業生が専任教員として学校教育に携わっている。	3.5	3.7	卒業生の社会的を十分に把握されている多数の卒業生が専任教員として学校教育に携わっていることはとてもすばらしいと思います。 卒業生へのOCへの参加などはより積極的に行ってほしい。 卒業生の活用、ネットワークの拡大がハイテクの強みなると考える。 評価されています。

大項目	点検・評価項目	点検表項目総括	特記事項 （特徴・特色・特殊な事情等）	自己評価	学校関係者評価委員会評価	学校関係者評価委員からのご意見
5 学生支援	5-16　就職等進路 5-16-1　就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	3年前より導入したジョブカードも定着し、それらのツールを有効活用し学生指導にあたっている。合同面接練習会を毎年実施しているが、他学科との共同開催をすることで就職への意識付けや気付き、モチベーションの向上に繋がっている。学科ごとに就職活動の時期が異なるため、学科ごとに事前課題の回収時期を設定し、学生の回答レベルも上がってきている。	学内就職委員会を設置し他校の状況等も含め、就職活動の進捗をしっかりと確認し時機を逸しないよう仕掛けを設定している。就職率向上のための対策や学生のモチベーション向上のために就職出陣式や業界特別講義を実施している。大学編入へのサポートや国家資格取得のための進学指導も並行実施している。	4.0	4.0	就職等進路に関する支援組織体制を整備されている。 早い時期より内定が出されています。
	5-17　中途退学への対応 5-17-1　退学率の低減が図られているか	教務ステムを導入することによって、担任の逐次把握や、学生情報の共有が簡単にできる様になっている。これをベースに新たなシステム化の検討を進めていく。	本校では、退学率を4%以下と目標としている。また、学校カウンセラーが常駐するスチューデントサービスセンター（SSC）があり、活用している。また、左記の通り教務システムにより、学生情報の把握・共有ができている。	4.0	3.9	退学率の低減が図られている。 欠席や遅刻を早期にチェックして指導するのも良いかと思います。 少ない退学数で良好な運営。退学者の率が目標に達してないから 進級学年の退学者が多くなった原因ははっきりさせる必要がある。
	5-18　学生相談 5-18-1　学生相談に関する体制を整備しているか 5-18-2　留学生に対する相談体制を整備しているか	本校は担任制をとり、学生の日常の様子や出席状況等を十分に把握し、指導している。定期的に学生面談を実施し、登校ができない状況下においても、オンラインでの面談を実施している。状況や内容によっては、事務職員が相談窓口となりサポートすることもある。学校全体で学生の状況を把握し、連携・協力することで学生支援を行うようサポート体制を常時整えている。また、学生の身体面・精神面をケアするための学生相談所・クリニックを設置し、学生が心身ともに健康で、充実した学生生活を送ることができるよう教職員とカウンセラー・医療スタッフが連携・協力して学生支援を行っている。	本校の教職員は全員、研修にてカウンセリングスキルを習得している。担任を中心に学生が抱く種々の悩みに対して耳を傾け、寄り添うことで全ての教職員が相談しやすい雰囲気を日常から作ることに努めている。また、高度な知識と専門技術を持ったカウンセラーが常駐する滋慶トータルサポートセンターを学生なら誰でも利用することができる。教育面及び心理的な立場から包括的に支援できるよう学生の状況や背後にある物事に相応した体制整備の強化を更に進めている。	3.5	3.9	学生相談に関する体制・留学生に対する相談体制が多方面にわたり整備されている。 学生によりそう担任、学生の悩みを解決できる方向へ導いて、明瞭な内容を希望する。 メンタル面においても勉強面においても充実かつ、心強いサポート体制があるのは安心して入学させられます。これからもよろしくお願い致します。 大学編優、専門学校との併用、ダブルスクール、社会人の学びなおし、キャリアップなど多岐にわたるアプローチに期待したい。個別支援、手厚い指導がなされている。 担任制度により相談体制を整備されている。力を入れておられると思う。力を入れておられると思う 離職率を低下させるためにも、学生の思いを吸い上げ、学校も施設の業務、職場連携を聞きとった上で、サポートできると離職が下がるのではないか。
	5-19　学生生活 5-19-1　学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか 5-19-2　学生の健康管理を行う体制を整備しているか 5-19-3　学生寮の設置など生活環境支援体制を整備しているか 5-19-4　課外活動に対する支援体制を整備しているか	独自の奨学金・特待生制度を設け、国の修学支援制度、教育訓練給付金、アルバイト紹介、学費分納制度の設定など学生の総合的な経済的支援体制を行っている。健康管理については学校医である「慶生会クリニック大阪」と連携して取り組んでいる。要再検査対象者にも、担任より個別に受診指導を行っている。また、遠隔地から就学する学生のための学生寮も完備している。	設置学科が、昼間部・夜間部・専攻科・日本語学科と多様であるため、経済的支援や健康管理についても各人の状況に応じて対応している。また、社会状況(コロナ禍・気候変動・IT化等）をふまえ、災害時等に備えた緊急通報・安否確認アプリ制度を導入し、社会の変化に応じた学生支援を推進している。	4.0	4.0	学生の経済的側面・学生の健康管理・学生寮の千知などの生活環境・野外活動等、各それぞれの支援体制を整備されている。 担任の方は、もう少し踏み込んで、困難なことを共に解決方向へ早く導いてあげることはできないか？個別支援、手厚い指導がなされている。 奨学金制度、健康診断、学生寮など支援されている。 コロナ禍からアフターコロナとなり、学生生活がめまぐるしく変わってきていますのでサポートをお願いしたい。
	5-20　保護者との連携 5-20-1　保護者との連携体制を構築しているか	保護者の方々へ学校の取り組みに理解ならびに学生サポートの協力をいただけるよう入学前・在学中の保護者会、個別懇談会等を実施している。コロナ禍においては、Web面談等導入のうえ、参加しやすい環境を整えている。 また、前期後期ごとに成績・学園新聞等の送付をし、本校の教育理念、活動を理解して頂く機会を設けている。また、就職・国家試験準備保護者会を実施し、学生の状況に応じたサポート体制をとっている。基本である学習・生活習慣が重要となる為、担任・学科長・教務部長・学校責任者・事務局・キャリアセンターが連携して保護者と学生への個別対応等の支援体制をとっているが、複雑化する問題に対してより一層の連携の強化が必要だと考える。	本校では基本理念である3つの建学理念(実学・人間・国際教育)と4つの信頼（学生・保護者、業界、地域、高等学校）を基礎として、時代に即した技術力・人間力・国際力を身につける職業人教育を実践している。また、入学前教育・キャリア設計(在学中)・キャリア開発（卒業後）と段階を得て、ステップアップ支援体制を万全にしき、さらなる個々の状況に応じた教育支援体制をとれるように4つの信頼を深め、各業界や保護者とのより強い連携に努めている。個別対応として、独居学生の帰省前の保護者との情報共有や登校率の悪い学生や学力低下が激しく改善が必要な学生の保護者の方には連絡を入れ、自宅での学習・生活態度の支援協力等の連携をはかっている。	4.0	4.0	保護者との連携体制は謡的にしっかりと構築されている。 AIを論文等でつかいすぎないよう、指導を望みます。 ホームページ保護者欄が分かりにくい。 学生だけでなく保護者の連携体制が整っている。 欠席、成績など保護者への連絡体制もと取っているようである。 退学者を減らすためにも、保護者との連携は必須と考えます。
	5-21　卒業生・社会人 5-21-1　卒業生への支援体制を整備しているか 5-21-2　産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取組んでいるか 5-21-3　社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか	本校の卒業生は全て卒業時に「ハイテク校友会会則」に明記された同窓会会員となり、卒後教育勉強会や学園新聞を通じて、会員の相互親睦やキャリアアップを図る機会を提供している。また、学校法人　大阪滋慶学園　滋慶医療経営管理研究センター主催の医療・福祉マネジメントセミナーやグループ校や滋慶医療科学大学への編入、滋慶医療科学大学院大学への進学、海外提携校日本校・姉妹校への入学など、卒業後の再教育プログラムを提供することで更なるキャリア形成を図ることに寄与している。 今後、増加が見込まれる社会人経験のある入学生や一部の国家資格試験不合格の卒業生についても、既修得単位認定や的確な教育カリキュラム・教育環境を提供することで更なる支援体制を確立したい。	本校の卒後教育勉強会や同窓会では、学科が独自に時代背景に即したテーマを設定した勉強会を実施しているため、卒業生のキャリアアップに向けて有意義な場を提供することができている。キャリアセンターや図書室は必要に応じて卒業生にも開放しており、転職等の個別相談をはじめ、卒業後のキャリアアップに有効な場として用いられている。 また、国家資格系学科（臨床工学技士科・柔道整復師学科・鍼灸スポーツ学科・診療放射線技師学科）では、必要な所定単位を履修した卒業生に対して、国家試験不合格となった場合でも卒業後も継続的に教育支援を行い、必要に応じて講義、勉強会の聴講や模擬試験受験、及び個別指導を実施している。特に、柔道整復師学科・柔道整復スポーツ学科においては、JESC国家資格対策センター主催のリ・スタートセンターに登録することで、滋慶学園8校と連携したICTを活用した定期的な模擬試験の受験や通学制国家試験対策講座の受講が可能となる。	3.7	3.7	卒業生への支援体制、社会人ニーズを踏まえた教育環境等を制Bいされている。 産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいる。 先日、貴校卒業生から連絡があり、頑張っていますとの元気な声が聞け嬉しく思いました。離職率を下げるためのさらなる支援や体制が必要となる。学び続けるキャリアアップ対策。 卒業生の離職率調査が追跡調査など低季節に行われている。 就職率を把握されているのは素晴らしい。そのうえで対応を。
6 [illegible]	実習設備の充実が必要 6-22　施設・設備等 6-22-1　教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	各校舎に環境安全衛生委員を任命し、毎月、第一金曜日に環境安全衛生委員会を実施し施設の故障や改修状況について情報共有し、改修漏れを防いでいる。また、関連企業にサポートをお願いし施設設備の管理を定期的に行っている。法令順守を意識し短中長期の計画を策定し施設管理を行っている。	全教室にWifiが対応できるようにしている。授業終了後の小テストをスマホで回答できるように設備を整えている。オンライン授業と対面の授業の両面に備えて対応できる環境を整えている。昨年から改善点として3校舎の一部でトイレを新しく改修している。	3.0	3.3	教育上の必要性に十分対応して施設・設備・教育用具を整備されている。 実習の日数を増やしたり、色々な方面の実習を経験して就職先を考えるようにしてほしい。 卒業してからも仕事で関係する情報を調べたりすることができるか。業界動向をふまえたカリキュラムか。 設備点検等は設備点検台帳を作成して運用されているのか また、設備管理者は選任されているのか ICT環境、主体的に学べる部屋、ラーニングコモンズなど学びを楽しめる環境が必要。 コロナ禍によるネット環境の整備、トイレ改修など学生への還元もされている。 アフターコロナにおいてもWebでのオンライン授業は使い方によっては有効だと思います。財政状況等、問題はいろいろとあると存じますが、メンテナンスを含めて実習設備の充実には気を配っていただきたく思います。

大項目	点検・評価項目	点検表項目総括	特記事項 （特徴・特色・特殊な事情等）	自己評価	学校関係者評価委員会評価	学校関係者評価委員からのご意見
教育環境	6-23　学外実習、インターンシップ等 6-23-1　学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	学外実習、海外研修では、教育指導要領だけでなく各学科に実施要綱やマニュアルがありそれを基に準備、実施、振り返りが行われている。 学外実習は、業界の実際を知り、社会人となる自覚や責任、協調性の大切さに気付く貴重な場であり、十分な事前準備や事前学習が重要となる。 海外研修は、アメリカ、中国の提携校と連携し、各学科にあったプログラムを実施し、グローバルな視野と感性を養う貴重な機会となっている。 新型コロナウイルス感染症予防対策の影響に伴い、従来の形での実施が難しくなっているが、時代に即した中でも高い教育効果が得られるプログラム内容や体制の整備をすすめ、感染症予防対策を実施しながら新しいかたちでのプログラムを実行することができている。	学外実習では、医療系国家資格取得の資格要件を満たすための臨床実習、卒業研究の一環としての学外実習、インターンシップ実習、出身高校への母校実習など、各学科の特性を活かした実習を行っている。就職を見据え、学生の希望を反映した実習先を確保することで、実習先が就職先に繋がることもみられる。臨床工学技士科、診療放射線技師学科では、実習前に校章授与式を実施し臨床実習へ取り組む心構えを確認している。 海外研修では、新型コロナウイルス感染症予防対策の影響に伴い、現地での研修は実施できていないが、海外提携校とのオンライン講義や学生交流、ネイティブ講師による外国語講義を行い、日本国内でも教育効果が得られる内容となるよう工夫している。	3.0	3.3	学外実習・インターンシップ・海外研修等の実施体制をコロナ禍で感染予防対策を実施しながら、工夫して整備されている。 コロナで実施できていないのが残念。 定員充足率をあげるためにも高校生のインターンシップ等を取り入れるのはいかがでしょうか？ 技術の進歩は早いので、積極的に外部の企業や団体の連携をしてほしい。 専門性を高める実習やインターンはもちろんのこと、社会スキルやコンピテンシーを高める実習も必要である。（社会を広くする）
	6-24　防災・安全管理 6-24-1　防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか 6-24-2　学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	本校には薬品等の危険物もある為、管理に関しては固定設置や量の確認も含めて管理を行っている。次年度からは環境安全衛生委員会の年間の議題にも追加し確認していく。災害時に備えての施設・設備などの安全管理（固定設置等）を行うと共に防災訓練（消防避難訓練）を全学生、教職員に対し実施要領とおり消防署の指導の基、実施している。	毎月の環境安全衛生委員会で確認をすると共に組織図を毎年4月に更新し情報の共有を行っている。今年度の消防避難訓練は3年ぶりに動画ではなく実際に実施した。この2年間はコロナで密を避ける観点から動画視聴で対応していたが、就職してからの学生の事も考え実際に行う流れで実施するに至った。学生にもしっかり動機づけをすることができた。	4.0	3.9	防災に対する組織体制・学校内における安全管理体制等を整備し、適切に運用している。薬品等は環境によって劣化しやすいものもある。薬品の使用期限等の管理はなされているのか（例えば開封後1年で廃棄するなど） コロナや自然災害など学校明けでなく個人の意識も高まっている。 適切に行われているようであす。
7 学生の募集と受入	7-25　学生募集活動 7-25-1　高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取組んでいるか 7-25-2　学生募集を適切かつ効果的に行っているか	高等学校等へクラブ活動や高校教員を対象としてセミナーを実施している。また、学校案内の他に高校教員や保護者を対象とした資料等も作成している。学校案内は、真実性・明瞭性に基づいて作成している。法人内に広告倫理委員会や個人情報保護委員会を設置し、チェック体制を整えている。	高校へのクラブ活動サポートや専門授業の提供など、さらに高専連携の強化に取りくむ。SNSを使った情報提供を継続的に行い、気軽に情報収集できる仕組み作りを取り組み、円滑に学生募集を進めることができた。次年度は、ホームページコンテンツの充実を行い検討ができるようなコンテンツを作成してく。	4.0	3.8	高等学校等説即する教育機関に対する情報提供に取り組んでいる。学生募集を適切かつ効果的に行っている。 生徒数も大事ですが、医療従事者にふさわしい人格か見極めてもらいたい。ふさわしい人にしてもらいたい。今の子は表と裏がはっきりしているがかくすのも上手。 学科名と就職先の結びつき（連想）がしやすいか 学校紹介をかねて高校へ訪問して実験やﾌﾟﾚｾﾞﾝ等をされてみてはいかがでしょうか。 最近の若者はSNS、特に動画から情報を得ているので、プロモーション動画を多く発信していくのがよいのでは？定員充足率、定員確保へのアプローチがさらに必要である。 少子化に伴う学生募集も順調に行われている。 国家試験を広く知ってもらうためには専門学校からの高校へのアプローチが重要だと思う。
	7-26　入学選考 7-26-1　入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか 7-26-2　入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	募集要項には3つのポリシーを明記し、入試選考は、募集要項で明記した基準に基づいて行っている。入学前からの情報を教務・事務・キャリアセンターと共有し、学生指導及び就職指導にも活かしている。入学選考は年度毎に計画・予算を決定し、運営している。	進路の早期化傾向にあり、入試選考では適性AO入試、適性クラブAO入試での選考が中心になっている。また、大学生や社会人の学び直しを検討している方も業界推薦入試・卒業生推薦入試等の業界や卒業生と連携した推薦入試制度を設けている。さらにインターネットから出願やエントリーができる「ネット出願」「WEBエントリー」も導入している。	4.0	4.0	入学・選考基準を明確k氏適切に運用している。入学辞退者に対して授業料等について適正な取り扱いを行っている。 高校訪問、HPなど広報、オープンキャンパスだけでなく新しいアプローチが求められる。全ても入試システムを実施し入学希望者に不利益とならないようにされている。 定員が足りていない
	7-27　学納金 7-27-1　経費内容に対応し、学納金を算定しているか 7-27-2　入学辞退者に対し、授業料等について、適正な取扱を行っているか	奨学金や修学支援制度を踏まえた学費説明や学費相談を行い社会の動きに合わせた情報を提供している。毎年、学納金については見直しを行っている。入学前のオープンキャンパスの段階で奨学金や教育ローン、修学支援新制度の情報を提供するなど学費相談も個別に対応している。学納金の明細・内訳も提示し、追加徴収は行っていない。また、入学辞退者に対しての授業料の返還については募集要項に記載し、適切に対応している。	修学支援制度の対象者には学費の納入時期や金額を調整の上、実施している。また、AS400システムで学納金データを管理しており、銀行等からの入金情報が随時把握できるようになっている。また、経理・広報・教務が連携して学費未納者の情報を共有し、必要に応じて個別で本人や保護者に対応している。学費の入金ずれに迅速に対応することにより入学辞退や学費未納の防止につながっている。	4.0	3.9	経費内容に対応し学納金を算定している。入学辞退者に対し、授業料等について適正な取り扱いを行っている。 学生の質向上のためにも特待生制度を取り入れるのはどうでしょうか。 システムがしっかりとしている。時代のニーズに応じた対応がされている。適切である。
8 財務	8-28　財務基盤 8-28-1　学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか 8-28-2　学校及び法人運営に係る主要な財務数値に関する財務分析を行っているか	事業計画の運用状況を四半期ごとに確認し対応している。資金を増加させて安定な学校運営をしていくためには、過去の分析とともに将来の分析も必要となる。そのため事業計画作成時に過去と将来の資料を分析して学生数の増加による収入の増加及び、経費の見直しを図って資金を増やしていくことが必要となる。適切に分析と把握が行なわれていると考える。	前年と比べ支出は現状維持をしており、その上で放射線技師学科を中心に在校生数の確保に成功しており、収入が増えている為、収支差益も改善し安定した経営基盤を築くことができている。今後も支出をおさえることを意識し財務基盤の安定を推し進めている。	4.0	4.0	学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定している。学辞退者に対し、授業料等について適正な取り扱いを行っている。 安定した財務、長期計画がなされている。内部監査・情報公開もしっかりとされている。適切である。
	8-29　予算・収支計画 8-29-1　教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか 8-29-2　予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか	年度予算、中期計画は事業計画の中に組み込み、毎年11月に作成し、更に2月後半に学生募集並びに予算執行率を基に修正作成し、承認を得ている。また、年度の始めに再度、実際の学生数をベースに修正を行っている。その上で中期計画を見据えて年度予算を立てているので、誤った方向へ進まないようにしている。	予算の執行状況は、事務局次長が確認を行い、更に理事長、常務理事が再チェックを行い、事業計画の中に組み込まれているか目を通し、改善を図っている。予算執行に関しては、絶えず予算書の提出と進捗率を踏まえて提出し、予算超過しないよう工夫している。	4.0	4.0	教育目標との整合性を測り単年度予算、中期計画を策定予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っている。 安定した財務、長期計画がなされている。内部監査・情報公開もしっかりとされている。適切である。
	8-30　監査 8-30-1　私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか	財務体制の強化を図るために監事の監査に加えて公認会計士監査も積極的に受けている。監事の監査は業務監査と会計監査、公認会計士監査は会計監査が行なわれるので、両者の効率的な実施のために監事と公認会計士との連携及び監査スケジュールを組んでいる。	学校、監事、公認会計士との財務上の指導を受けるために、ミーティングを設けている。また学園の内部監査を実施しており、運営・経理ともに問題点はみられない。	4.0	4.0	私立学校法及び寄付行為に基づき、適切に監査を実施している。 安定した財務、長期計画がなされている。内部監査・情報公開もしっかりとされている。 適切に実施されている。
	8-31　財務情報の公開 8-31-1　私立学校法に基づく財務公開体制を整備し、適切に運用しているか	平成17年の私立学校法改正に伴い、専修学校にも財務情報の公開が義務付けされたが、その改正を取り入れ、財務情報公開の体制を整えた。当初は閲覧の対応であったが、現在はホームページにも公開し、毎年欠かさず更新している。	法人のホームページにて資金収支、消費収支、貸借対照表、財産目録及び事業報告書について閲覧可能としている。	4.0	4.0	私立学校法に基づく財務公開体制を整備し適切に運用している。 安定した財務、長期計画がなされている。内部監査・情報公開もしっかりとされている。 適切に実施されている。

大項目	点検・評価項目	点検表項目総括	特記事項 （特徴・特色・特殊な事情等）	自己評価	学校関係者評価委員会評価	学校関係者評価委員からのご意見
9 法令等の遵守	9-32 関係法令、設置基準等の遵守 9-32-1 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	本校は厚生労働省管轄の国家資格系学科を含む医療専門課程の学科が設置されており、手続きや報告等は所轄官庁の指導に基づき適切に行われている。また、内部監査も定期的に実施している。新型コロナウィルス感染症の感染拡大における実習先変更等も含め、行政等の届け出は適宜対応している。	法令遵守や各種規定の整備、相談窓口の設置などは法人全体として取り組んでいる。	4.0	4.0	法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っている。 法人全体が大きいため、法令順守がしっかりとされている。評価・体制・公開もシステムがきちんとしている。関係法令（厚労省）については遵守されている。
	9-33 個人情報保護 9-33-1 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	個人情報保護に関しては教職員が正しい認識をもち、運用することが重要であることから、一時的な研修で終わらないよう、毎年更新研修を義務付け個人情報保護のルールの重要性を共有している。また、個人情報保護規定に則り、個人情報の取得から管理まで徹底して行っている。あわせて、学生指導時にも個人情報の重要性を発信している。	本校の職員は入職後、CPAの個人情報保護の資格取得を義務付けている。取得している職員には毎年の更新を義務付けている。また、本校では毎年6月にかけて各校舎に保管されている個人情報の状況確認を行い、個人情報保護台帳を修正作成している。	4.0	3.9	学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施している。 情報システムのセキュリティが本当に優れているのか、見直しをお願いします。 法人全体が大きいため、法令順守がしっかりとされている。評価・体制・公開もシステムがきちんとしている。職員、教員ともに個人情報保護の意識が高い。 業務システムは大変すばらしいが、個人情報の取り扱いが重要と考えます。
	9-34 学校評価 9-34-1 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか 9-34-2 自己評価結果を公表しているか 9-34-3 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか 9-34-4 学校関係者評価結果を公表しているか	本校では平成23年度より毎年自己評価報告書を作成している。作成にあたっては全教職員がそれぞれの業務に応じて参画しており、業務の振り返りを行うことで学校運営の改善に役立てている。また、学校関係者評価委員にも開示しご意見をいただき改善している。自己評価報告書は学校関係者評価とともに学校ホームページで公開されている。	平成25年度より学校関係者評価委員会を設置し、毎年、在校生保護者、卒業生、地域代表、業界代表などの委員による学校関係者評価を実施している。その結果については学校ホームページにて公開されている。毎年度開催している学校関係者評価委員とのディスカッションにより、学内の改善点を抽出し学校運営の改善につなげている。	3.8	3.9	自己評価の実施体制を整備し、評価行っている自己評価結果を公表している。 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っている。学校関係者評価結果を公表している。法人全体が大きいため、法令順守がしっかりとされている。評価・体制・公開もシステムがきちんとしている。適切に評価されている。
	9-35 教育情報の公開 9-35-1 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	学校の概要や各学科の教育内容、シラバス等については、学校ホームページにて公開している。教育指導体制や教育システムの情報とその成果である退学率や国家試験の合格率などの情報についてもすべて学校ホームページにおいて公表している。	情報公開はホームページを中心に行われており、職業実践専門課程の認定、専門職質保証機構の第三者評価、修学支援制度の対象校の認可も受けている。	4.0	4.0	教育情報に関する情報公開を積極的に行っている。 法人全体が大きいため、法令順守がしっかりとされている。評価・体制・公開もシステムがきちんとしている。ホームーページも時々見ています。公開されています。
10 社会貢献	10-36 社会貢献・地域貢献 10-36-1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	例年実施してきた、社会貢献・地域貢献・国際交流は、新型コロナ感染症の影響で常態とは異なる運営を余儀なくされている。一方オンラインを活用することにより、地域的な限界を考慮せず新たな取り組みを検討することが可能となり、新しい学習機会を提供できている。	臨床工学フォーラムを中心にアジア諸国との連携の強化は進んでいる。他方、オンラインを加味した新しい交流の形を模索している途上である。	3.5	3.6	学校の教育資源を活用した社会貢献を行っている。 コロナ後のこれからの活動に期待します。 専門学校として地域連携、産官学連携、ボランティア、インターンなどさらなる充実を期待したい。教員、学生一体となりボランティア活動にも参加されている。
	10-37 ボランティア活動 10-37-1 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	新型コロナ感染症の影響で多くの活動が制限された。	地域貢献ボランティア、献血活動、募金活動を推奨している。ボランティア活動は人間教育・社会性醸成の一環ととらえ、推奨している。	3.0	3.3	学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っている。新型コロナ感染症の円強でまり活動ができなかったのはでないあでしょうか？ 1年に1回強制的にボランティアに参加するようにしても良いと思います。 専門学校として地域連携、産官学連携、ボランティア、インターンなどさらなる充実を期待したい。全員ではないが参加されている。
11 国際交流	11 国際交流に取組んでいるか	－	－	－	－	アメリカでの海外研修が、学生時代の良い思い出なので再開を願っています。

2. その他、ご意見

いつもお世話になりありがとうございます。多くの本校卒業生が入学させていただいており、なおかつ、卒業してからも本校に来て、それぞれの業界で頑張っているとの話を聞くと大変うれしく思います。大変感謝しております。今後ともよろしくお願いいたします。
少子化の影響が大きくなり学生の争奪が行われてきている。マイナーな職種の学科は今まで以上にその職種の良さをアピールしていく必要がある。学校のみの取り組みでは限界があるので、職能団体が就職先と連携して取り組むべきであると考える。学校側からの働きかけ、リーダーシップにて取り組みを進めることはできませんでしょうか。
スポーツ科学科の定員充足、離職率を下げるためのキャリア形成・キャリアアップ、トレーナーではない新たなアプローチが求められると思います。学校・OB・現場と共に、どうしたらよいかが戦略を立てる必要があると思います。卒業生として学科の生き残りに期待したい。医療専門職連携教育についてお話を伺い、大変すばらしい取り組みだと思いました。複数の学科も持っている専門学校ならではの取り組みだと思いますので、大切にしていただきたいです。